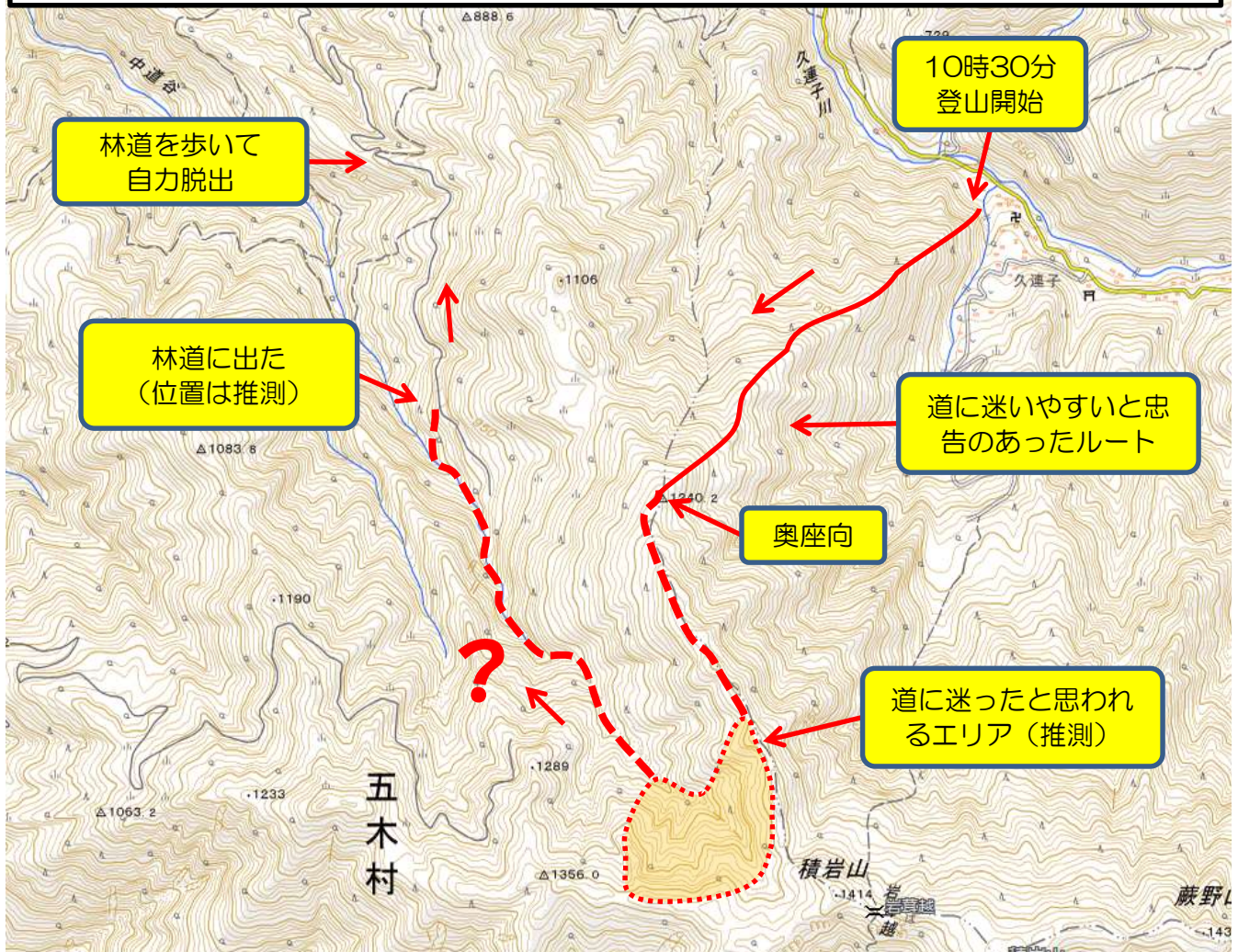


積岩山遭難(2017年10月)

林道が工事中のため、やむを得ず迷いやすいと忠告のあったルートに変更。道が途中で無くなったため引き返したが、すでに道に迷っていた。翌日、無事に下山に自力下山した。



解説

登山計画の登山口は林道工事中のため到達できず。①「せっかく来たのだから」と道迷いやすいと忠告のあったルートを選択した。②登山開始は10時30分過ぎと遅かった。奥座向に13時、ここから約1時間で岩積山に到着すると思っていたが、道案内の赤テープも次第に少なくなってきた。それでも、③赤テープを頼りに進むと次第に西へ下っていく。しかし、④「山では、一旦下ることはよくあることだ。」と赤テープを信じて進んだ。

14時過ぎ、引き返すが、来た道がわからない。⑤沢を下ったが、10メートルぐらいの滝に出た。木にぶら下がりながら斜面に這いつくばり進んだ。⑥「まさか自分がこうなるとは。しかし、必ず、この谷を下れば久連子の集落に降りることが出来る。自分は尾根を間違えただけで、方角は間違っていない。あと1時間も下れば、地理的にも里に下ることが出来るはずだ。」と信じた。

午後7時携帯を取り出すが電池切れ。その日はビバークをしたが、⑦地形図(山域全体の簡単な地図は持参)、雨具、ヘッドライト、保温シートは持っていなかった。翌日、川を渡り崖をよじ登り林道にようやく出た。

道迷いは、起こるべき要因が必ずあると思う。気を付けたい。